

[主な質問項目]

【1】ジェンダー平等社会をめざして

(1) 性暴力から県民を守る取り組みについて

- ア. 相談体制の充実について
- イ. 痴漢被害防止につながる啓発について
- ウ. 痴漢防止対策について

(2) リプロダクティブヘルス/ライツを尊重する包括的性教育について

(3) 生理の貧困について

(4) 同性パートナーシップ制度について

(5) 行政機関や民間の雇用等におけるジェンダー平等の推進について

【2】県民の困難に寄り添う県政へ

(1) 介護保険制度における補足給付の見直しについて

(2) 若者の学びを支える県営住宅の家賃減免等支援について

(3) 高齢者の日常生活や社会参加を支える補聴器購入補助について

【1】ジェンダー平等社会をめざして

(1) 性暴力から県民を守る取り組みについて

本県の次期男女共同参画推進プランの策定を翌年に控え、計画に盛り込むべきと考える施策について質問して参ります。

日本共産党東京都委員会が 2020 年に行った痴漢の調査では、1435 人から回答が寄せられ、その被害に遭った場所は、圧倒的に多い電車の中をはじめ、学校や公共施設、映画館など、日常生活のあらゆる場面にわたります。

電車内の痴漢は、「繰り返し」、「覚えきれないほど」などの記述が多数あり、「父親を含め男性と話せなくなった」、「満員電車が怖くなり途中下車してしまうために不登校になった」、「鬱になって働けなくなった」という声、自分を責め、「死にたい」という方が 13 人もいました。「精神、身体の不調に現れ、治療しなくてはならない」など、被害者の人生に深刻な打撃を与えていることがわかります。

2-1 どのような被害をうけましたか? (複数回答可)

胸を触られた	43.1%
お尻を触られた	65.2%
性器を触られた	26.4%
性器を押しつけられた	36.0%
体を密着させられた	60.6%
舐められた	5.4%
髪の毛を触られた	12.8%
精液や唾液をかけられた	7.3%
匂いがかがれた	14.5%
触られそうになった	21.6%
怒鳴られた	24.7%
見せられた	39.9%
つかまれた	16.6%

【出典】日本共産党東京都委員会HPより

「痴漢被害」についてのアンケート
調査結果【次頁に続く】
2020年8月10日～11月11日
日本共産党東京都委員会実施

叩かれた	7.2%
けられた	6.5%
ぶつかられた	30.7%
服の中をのぞかれた	17.9%
じっと見られた	33.4%
言われた(「胸大きいね」「1万円どう?」など不快な呼びかけ)	43.3%
あとをつけられた	35.2%
盗撮された	16.9%
衣類を切られた	0.0%
異物をカバンなどに入れられた	2.4%
何らかのジェスチャーによるハラスメント	12.9%
オンラインハラスメント(性的画像などをエドロップ機能などで送りつけられる)	7.6%
回答あり	96.2%
無回答	3.8%

【出典】日本共産党東京都委員会HPより

「痴漢被害」についてのアンケート
調査結果【前頁の続き】
2020年8月10日～11月11日
日本共産党東京都委員会実施